

評価指標

令和6年輸血状況調査結果

評価指標 (5項目)	300床以上 回答率:89.8% (回答有:79病院 / 調査対象:88病院)					100床以上300床未満 回答率:92.1% (回答有:117病院 / 調査対象:127病院)				
	令和5年	令和6年	※1			令和5年	令和6年	※2		
			医療種別(○) 又は 三次救急(○) (59病院)	医療種別使用 量を控除した 場合	医療種別(★) + 三次救急(★) (20病院)			医療種別 (○) (8病院)	医療種別使用 量を控除した 場合	医療種別 (★) (109病院)
①輸血療法委員会設置 (設置率) (設置医療機関数)	100%	100%				93.3%	91.5%			
	82病院	79病院								
【評価指標の考え方】										
※3 ②血漿製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	0.38	0.39	0.42	0.42	0.17	0.21	0.19	0.32	0.32	0.17
【評価指標の考え方】循環血漿量補充、蛋白源としての栄養補給等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対する血漿製剤の使用量比率を下げる。										
③アルブミン製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	1.23	1.16	1.21	1.21	0.71	0.87	0.95	1.14	1.14	0.93
【評価指標の考え方】蛋白源としての栄養補給、末期患者への投与等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										
④(血漿製剤+アルブミン製剤) /赤血球製剤 (使用量比率)	1.62	1.55	1.63	1.63	0.88	1.08	1.14	1.46	1.46	1.10
【評価指標の考え方】アルブミン製剤及び血漿製剤の使用総量を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤と血漿製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										
⑤アルブミン製剤の国内 献血由来製品の使用割合 (g換算)	74.0%	72.5%				84.3%	85.5%			
【評価指標の考え方】法律に基づく国内自給達成に向け、輸入への依存度の高いアルブミン製剤における国内献血由来製剤の使用割合の向上を図る。 ※アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。										

◎廃棄率について

廃棄率	300床以上 (回答率:89.8%) (回答数:78病院/調査対象:88病院)				100床以上300床未満 (回答率:78.0%) (回答数:99病院/調査対象:127病院)			
	令和5年	令和6年	医療種別(○) 又は 三次救急(○) (59病院)	医療種別(★) + 三次救急(★) (20病院)	令和5年	令和6年	医療種別(○) (8病院)	医療種別(★) (109病院)
全血製剤廃棄率	-	-	-	-	-	-	-	-
赤血球製剤廃棄率	0.4%	0.4%	0.4%	0.6%	1.9%	1.7%	1.9%	1.7%
血漿製剤廃棄率	1.0%	1.0%	1.0%	1.7%	3.1%	2.9%	1.7%	3.2%
血小板製剤廃棄率	0.2%	0.3%	0.3%	0.2%	1.2%	0.7%	0.4%	0.7%
全製剤合計廃棄率	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	1.8%	1.5%	1.4%	1.6%

注釈

※1 医療機関の分類方法について

- ・医療種別(○)・・・調査において「医療種別」項目に回答のあった(「血漿交換療法」または「生体肝移植」を実施していると回答のあった)医療機関
- ・医療種別(★)・・・調査において「医療種別」項目に回答のなかった医療機関
- ・三次救急(○)・・・三次救急を実施している医療機関
- ・三次救急(★)・・・三次救急を実施していない医療機関

※2 「医療種別使用量を控除した場合」とは、調査において回答のあった「血漿交換療法」または「生体肝移植」での製剤使用量を全体の使用量から控除して算出した指標数値を指す。

※3 各指標の計算式は、裏面のとおり。

※3 評価指標②～④ 算出式

## A の算出式

(血漿製剤総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2)  
赤血球製剤＋全血＋自己血

## B の算出式

$$\frac{(\text{血漿製剤総使用量}-\text{「血漿交換療法」で使用した血漿製剤}/2)+(\text{アルブミン総使用量}-\text{「血漿交換療法」で使用したアルブミン})}{\text{赤血球製剤}+\text{全血}+\text{自己血}}$$

### C の算出式

(血漿製剤総使用量－「血漿交換療法」で使用した血漿製剤／2)  
赤血球製剤＋全血＋自己血－(「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤)

### C' の算出式

(アルブミン総使用量－「血漿交換療法」で使用したアルブミン)  
赤血球製剤＋全血＋自己血－(「血漿交換療法」で使用した赤血球製剤)

## C'' の算出式

$$\frac{(\text{血漿製剤総使用量}-\text{「血漿交換療法」で使った血漿製剤}/2)+(\text{アルブミン総使用量}-\text{「血漿交換療法」で使ったアルブミン})}{\text{赤血球製剤}+\text{全血}+\text{自己血}-\text{「血漿交換療法」で使った赤血球製剤}}$$

評価指標 (5項目)	300床以上 回答率: 89.8% (回答有: 79病院 / 調査対象: 88病院)					100床以上300床未満 回答率: 92.1% (回答有: 117病院 / 調査対象: 127病院)				
	令和5年	令和6年	※1			令和5年	令和6年	※2		
			医療種別(○) 又は 三次救急(○) (59病院)	※2 医療種別使用 量を控除した 場合	医療種別(★) + 三次救急(★) (20病院)			医療種別(○) (8病院)	医療種別使用 量を控除した 場合	医療種別(★) (109病院)
①輸血症法委員会設置 (設置率) (設置医療機関数)	100%	100%				93.3%	91.5%			
	82病院	79病院								
【評価指標の考え方】										
②血漿製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	0.38	A	A	C	A	0.21	A	A	C	A
【評価指標の考え方】	循環血漿量補充、蛋白源としての栄養補給等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対する血漿製剤の使用量比率を下げる。									
③アルブミン製剤/赤血球製剤 (使用量比率)	1.23	1.16	1.21	C'	0.71	0.87	0.95	1.14	C'	0.93
【評価指標の考え方】	蛋白源としての栄養補給、末期患者への投与等の不適正な使用を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。									
④(血漿製剤+アルブミン製剤) /赤血球製剤 (使用量比率)	1.62	B	B	C''	B	1.08	B	B	C''	B
【評価指標の考え方】	アルブミン製剤及び血漿製剤の使用総量を抑制するため、赤血球製剤の使用量に対するアルブミン製剤と血漿製剤の使用量比率を下げる。 ※アルブミン製剤は(g換算/3)単位化。また、アルブミン製剤には加熱人血漿蛋白製剤を含む。									

【参考】評価指標等 病床別詳細

令和6年輸血状況調査結果

	調 査 回 答 病 院 数	使用量(単位換算)									※ 評価指標②～④			製剤別廃棄率													
		赤血球製剤 (全血製剤・自己血輸血含む)					血漿製剤		アルブミン製剤		② 血漿製剤 / 赤血球 製剤	③ アルブミン 製剤 / 赤血球 製剤	④ 血漿製剤 + アルブミン 製剤 / 赤血球製剤	廃 棄 率 病 院 数 項 目 回 答	全血製剤			赤血球製剤			血漿製剤			血小板製剤			
		病 院 数	使 用 数	赤 血 球 製 剤	全 血 製 剤	自 己 血 輸 血	合 計 値	病 院 数	使 用 数	病 院 数					使 用 数	購 入 量	廃 棄 量	廃 棄 率	購 入 量	廃 棄 量	廃 棄 率	購 入 量	廃 棄 量	廃 棄 率	購 入 量	廃 棄 量	廃 棄 率
1000床以上	6	6	101,636.0	0	5,552.8	107,188.8	6	72,136.0	6	219,779.7	0.61	1.73	2.34	6	0	0	-	102,170.0	329.0	0.3%	72,872.0	688.0	0.9%	238,080.0	910.0	0.4%	
700～999床	11	11	151,443.0	0	5,778.8	157,221.8	11	71,480.0	10	197,154.2	0.41	1.08	1.49	11	0	0	-	152,427.0	401.0	0.3%	75,161.0	717.0	1.0%	402,205.0	780.0	0.2%	
500～699床	13	13	96,423.0	0	3,787.1	100,210.1	13	35,375.0	12	127,524.2	0.32	1.18	1.50	13	0	0	-	97,068.0	309.0	0.3%	35,884.0	374.0	1.0%	181,515.0	430.0	0.2%	
400～499床	23	22	96,087.0	0	5,960.3	102,047.3	22	36,062.0	18	108,448.7	0.32	0.99	1.31	22	0	0	-	96,941.0	611.0	0.6%	36,601.0	374.0	1.0%	146,455.0	475.0	0.3%	
300～399床	26	26	68,860.0	0	2,982.5	71,842.5	24	17,445.0	22	58,018.2	0.23	0.71	0.94	26	0	0	-	69,479.0	533.0	0.8%	18,754.0	262.0	1.4%	97,800.0	260.0	0.3%	
200～299床	34	33	54,335.0	0	2,940.5	57,275.5	31	15,015.0	33	85,138.5	0.26	1.03	1.29	33	0	0	-	54,653.0	631.0	1.2%	14,308.0	214.0	1.5%	26,410.0	225.0	0.9%	
100～199床	83	71	42,432.0	0	1,843.0	44,275.0	45	4,490.0	65	38,357.9	0.10	0.85	0.95	66	0	0	-	42,758.0	1,071.0	2.5%	4,320.0	318.0	7.4%	25,711.0	120.0	0.5%	
50～99床	109	102	29,799.0	0	1,683.8	31,482.8	47	2,789.0	77	27,584.7	0.09	0.88	0.96	91	0	0	-	26,969.0	862.0	3.2%	2,305.0	166.0	7.2%	8,882.0	62.0	0.7%	
50床未満	213	106	13,536.0	0	1,929.5	15,465.5	12	1,952.0	55	14,434.2	0.13	0.93	1.06	84	0	0	-	11,533.0	254.0	2.2%	1,826.0	22.0	1.2%	4,940.0	0.0	0.0%	
使用量・合計	518	390	654,551.0	0	32,458.3	687,009.3	211	256,744.0	298	876,440.1	0.34	1.11	1.45	352	0	0	-	653,998.0	5,001.0	0.8%	262,031.0	3,135.0	1.2%	1,131,998.0	3,262.0	0.3%	

※ 評価指標②～④は、「赤血球製剤:全血製剤と自己血輸血分を含む」値、「血漿製剤:血漿交換療法で使用した血漿製剤量の1/2を差し引いた」値、「アルブミン製剤:血漿交換療法で使用したアルブミン製剤量を差し引いた」値。